

2022年4月12日

報道関係者 各位

連合子ども・子育てサロン 子育てに関するアンケート 調査結果

日本労働組合総連合会（略称：連合、所在地：東京都千代田区、会長：芳野 友子）は、広く子育て世帯の声を聴き、有識者などとともに考える「連合子ども・子育てサロン」の取り組みをスタートしました。

第1弾として、新型コロナウイルス感染症の拡大が長期化する中で一層困難さが増した子育て世帯に、子育てしていて心があたたまったりつめたいと感じたこと、どのような支援がほしいかなどについて2022年1月7日～2月6日の間、アンケートを実施し、一般の方や組合員など全体で2,173人に回答いただきました。

本調査結果のポイントを、自由記入の回答（設問3～7）をもとに次のとおり整理いたしました。

【自由記入の回答からみえるポイント】

<子育てしていてほっこりしたこと> …P.4

- ◆ 子どもの笑顔、寝顔、成長など、子どもに関することでほっこりする
という回答が最多（81.0%が子どもに関することに分類できる）
- ◆ 子育てへの配慮など地域コミュニティや職場に分類できる回答も多く、
保護者が安心して子育てするために重要なポイントと言える

<子育てしていてつめたいと感じたこと> …P.4

- ◆ 地域コミュニティや職場では子どもや子育てに対して理解のない対応
もあり、子育てしていてつめたいと感じたという声も
- ◆ 保育サービスなどの支援やおむつ交換台などの設備の不足も、子育て
につめたい社会という印象に

<子育てにほしいもの・こと> …P.5

- ◆ 育児や家事の負担を軽減するものが欲しいとの声が多い（47.9%が負担
軽減のことに分類できる）
- ◆ 子どもや家族と過ごす時間が欲しいとの声も

<日本で子育てすることへの意見> …P.5

- ◆ 安心、平和、治安、清潔、文化などから日本での子育てに肯定的な意見
がある一方、不満や課題が見える回答が多い
 - ・ 女性に重くのしかかる子育て、家事、仕事
 - ・ 休めない、帰れない…子育てへの配慮が得られにくい職場環境
 - ・ 地域からの協力の大切さ、安心・安全への配慮による声かけの難しさ
 - ・ 子育てにかかる費用の支援を求める声
 - ・ 子育ては社会全体で支えるべきという声が多い中、親の責任に関する声も

連合子ども・子育てサロン 配信中

「連合子ども・子育てサロン ～『子どもを育てやすい国』日本へどう変える?」と題する動画を配信しています。

本アンケート結果の「中間報告」(2月1日までに寄せられた回答1,692件を集計したもの)を用いて、有識者などとのトークセッションを行いました(2022年2月17日収録)。ぜひご覧ください。

【動画視聴はこちらから】



<https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/kurashi/kosodate/kosodatesalon.html>

○動画のトークセッション出演者：

- ・ 常見 陽平 千葉商科大学国際教養学部 准教授
- ・ 奥山 千鶴子 NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 理事長
- ・ 佐保 昌一 連合 総合政策推進局長

【連合子ども・子育てサロンを受けて】

今回のアンケート調査および動画収録にご協力いただいた皆様に対し、心より感謝いたします。ありがとうございました。

この取り組みを通じて、子育てをめぐる様々な課題について再認識いたしました。

子育ての多くが女性に偏っていることや、世間からも女性が育児をするのが当たり前と見られていることの指摘が多いことは、ジェンダーバイアスの根深さを示しています。また、男女どちらの立場からも子育てと仕事との両立が難しいという声は多く、職場では上司だけでなく同僚からも育児について十分理解が得られてはいないという実感があるようです。その他、地域においても、子育て中につめたさを感じる現実、教育をはじめ子育てにかかる重い費用負担などに対し、支援の充実が求められます。

子育てに困っている人のこうした声に向き合い、一つひとつ改善していくために、行政・企業・労働組合がそれぞれの役割を果たしていくことが必要です。「保護者だけでは子育ては困難」ということを私たち一人ひとりが認識し、だからこそ、子ども・子育てを社会全体で支えていかなければなりません。そして保護者にとってかけがえのない「子どもといる時間」が保障されるようにするとともに、育ちの場を選ぶことのできない子どもが一人の人間として成長できるよう、子どもに関する施策に、子どもの意思と最善の利益が尊重されるようにしていくことが重要です。

これからの時代、未来を担う子どもや子育てが社会から孤立することなく、地域等に居場所がある社会、子どもや子育てを社会全体で支えていく意識が当たり前になっている社会の実現に向けて、連合としてこれからも全力で取り組んでまいります。

日本労働組合総連合会
総合政策推進局長 佐保 昌一

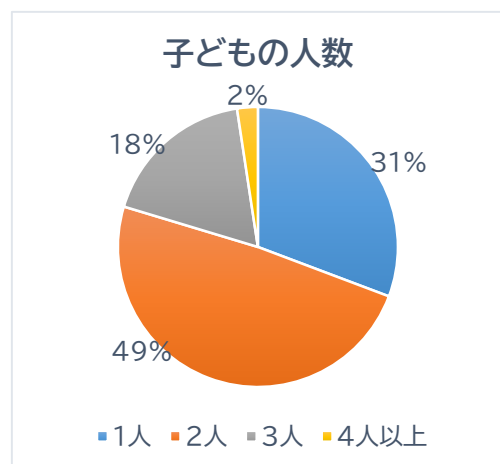
設問項目

- 【設問1】 ニックネーム
- 【設問2】 お子さんの人数
- 【設問3】 お子さんの年齢（複数回答可）
- 【設問4】 子育てをされていて「ほっこりした」と感じたこと（自由記入）
- 【設問5】 子育てをされていて「つめたいなー」と感じたこと（自由記入）
- 【設問6】 ミライの子育て「こんなものが欲しい！」（自由記入）
- 【設問7】 「日本で子育てすること」について思うことなんでも！（自由記入）

調査結果詳細
【設問2】 お子さんの人数

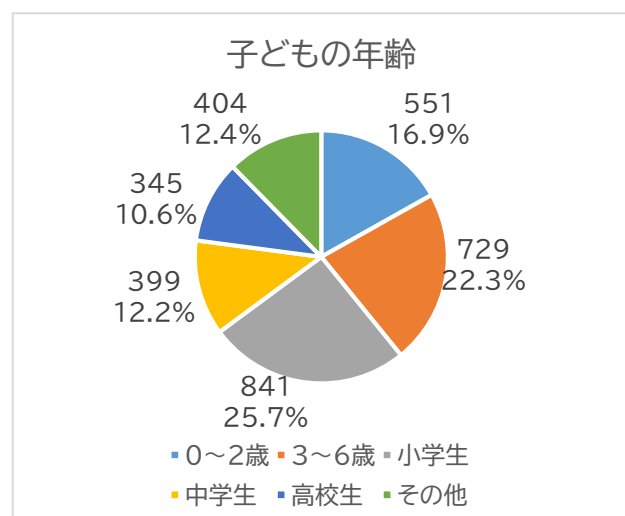
1人	668	30.7%
2人	1063	48.9%
3人	390	17.9%
4人以上	52	2.4%

子どもの人数は2人が最も多く約半数、続いて1人が約3割となりました。


【設問3】 お子さんの年齢

子どもの年齢は、小学生や未就学児という回答が多い結果となりましたが、中学生や高校生、なかには成人という回答もあり、子育て中の方から子育て経験者の方まで広く回答をいただきました。

なお、1人の回答者が複数の子どもの年齢を答えている場合があります。そのため、回答者と子どもの年齢との関係を適切に表す集計とはなっていないことをお含みおきください。



【設問4】 子育てをしていて「ほっこりした」と感じたこと（自由記入）

子育てしてほっこりした気持ちになったことを伺ったところ、子どもの笑顔や寝顔、成長した姿など、子どもに関する回答が圧倒的に多い結果となりました。続いて、地域やコミュニティの中で、近所の方から声をかけられたことや、公共交通機関などでの気遣いなどの回答がありました。職場においても、子どもの体調不良などで急な休みを申請した際に、子育てに対する理解があったことや協力的な対応、あたたかい声かけがあったことに対して、ほっこりしたという回答が見られました。家庭では、家族で過ごす時間や育児や家事を一緒に行ったこと、制度面では、子どもへの給付金を自治体から受給したことや保育所などで相談にのってもらえたことなどの回答がありました。

子どもの姿や言動に加え、子育てしながら生活する中で身近な人からの声かけや少しの配慮であたたかい気持ちになる保護者がいることがわかりました。

子育てをしていて「ほっこりした」と感じたこと n=2113(複数回答)

子どもに関すること	1711	81.0%
家族	41	1.9%
職場	117	5.5%
コミュニティ・地域	206	9.7%
各種制度	16	0.8%
その他	22	1.0%

※上記は自由記入の回答を連合が分類したものです。

【設問5】 子育てをしていて「つめたいな」と感じたこと（自由記入）







子育てしていてつめたいなと感じたことについては、子どもに対してうるさいなどと言われる、公共交通機関で割り込みをされる、子どもの体調不良や行事があっても仕事を休めないといった地域コミュニティや職場の環境の中で子どもや子育てに対する理解が得られないという回答が多く挙がりました。

また、保育所に入れないなどの子育て支援制度に対する意見、男性トイレにおむつ交換のための設備が設置されていないなど生活空間でつめたいと感じたことがあるという回答も見受けられました。

子どもが懐いてくれない、特に子どもと遊ぼうとしてもママばかりで寂しいという男性からの回答や話しかけても無視されるなどの子どもの態度に冷たさを感じるなどの声や、家族が育児や家事に非協力的、夫が子どもより仕事を優先すること、子どもの世話などで夫が妻に質問しても冷たくあしらわれたときという回答も複数みられました。

ほっこりしたことと反対に、地域コミュニティや職場で子育てに理解のない対応を受けてしまったことでつめたいと感じていることがわかりました。また、未だに解消されていない待機児童問題や子育てに配慮されていない施設に対し不満を感じていることもわかりました。

子育てをしていて「つめたいな」と感じたこと n=1528(複数回答)

子どもに関すること	261		17.1%
家族	117		7.7%
職場	375		24.5%
コミュニティ・地域	487		31.9%
各種制度	145		9.5%
その他	143		9.4%

※上記は自由記入の回答を連合が分類したものの。

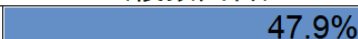





【設問6】 ミライの子育て「こんなものが欲しい！」(自由記入)

子育てをしていてどのようなものやサービスがあったらうれしいか、夢のような道具やアイデアも含めて伺ったところ、自動で寝かしつけやおむつ交換、見守りをするロボットや赤ちゃんが言いたいことがわかる機械など『子育ての負担を軽減するもの』に関する回答が最も多くありました。育児と同様に家事の負担を軽減する家事ロボットがほしいとの声もありました。

子育ての負担軽減の次に、教育費や医療費といった子育てにかかる費用を軽減できる制度を求める声が多く、子どもや家族と過ごす時間などもっと多くの時間を家庭にあてたい、子どもの声を気にせずボールなど遊具の制限がない自由に遊べる場所が地域にほしい、子どもや子育て世帯に限らずだれに対しても思いやりのある社会になってほしいという回答もありました。

職場に対しては、定時で帰れる環境や休みを取りやすい風土、職場に託児所がほしいなどの声がありました。

子育てにこんなものが欲しい！ n=1622(複数回答)

子育ての負担を減らすこと	777		47.9%
家事の負担を減らすこと	74		4.6%
職場	101		6.2%
コミュニティ・地域	170		10.5%
各種制度	262		16.2%
その他	238		14.7%

※上記は自由記入の回答を連合が分類したものの。

【設問7】 「日本で子育てすること」について思うことなんでも！（自由記入）

自由記入欄として「『日本で子育てすること』について思うことなんでも！」を問うたところ、1,750件のコメントがありました。「特になし」「なし」を除く1,703件のうち、日本での子育てについて、安心、平和、治安、清潔、日本の文化などの理由で肯定的に受け止めているコメントが含まれているものが約100件ありました。残るコメントは不満や不安、課題などでした。

不満や不安、課題を表すコメントで特に目立ったものが、女性の負担とジェンダーバイアス、職場の環境・理解と働き方、地域コミュニティと防犯意識、子育て費用の高さに関するコメントでした。また、コメントに示された子ども・子育て観は非常に

多様なものでした。

<女性の負担とジェンダーバイアスに関する回答>

子育てと家事に加え仕事の負担が女性に重くのしかかっていること、子育ては女性の役割といった見方が親やパートナー、学校、職場、地域社会などに依然として根強く、女性の負担となっていること、男性（夫）の家事や育児への貢献の低さを指摘する声などが多数寄せられました。

<職場の環境・理解と働き方に関する回答>

職場の上司の理解が得られにくく、有給休暇や育児休業、子の看護休暇などの取得や就業上の配慮が得られにくい実情と子育て中の同僚に対する厳しい視線、長時間労働の是正や柔軟な勤務形態の選択と賃金水準の確保の必要性などを指摘するコメントが多数寄せられました。

<地域コミュニティの協力と防犯意識に関する回答>

地域コミュニティから協力を得られている人からは、協力を受けられることの大切さが指摘されるなど、親同士や地域コミュニティとのつながりへの期待が多く示される一方で、安全・安心志向や防犯意識が高くなっており、周囲の人からは子どもへの声かけがためらわれるとのコメントが多数寄せられました。また、子育て中の親が周囲からの厳しい視線を感じているとともに、まちづくり自体が子育てに優しくできていないことを指摘するコメントが多数寄せられました。

<子育て費用に関する回答>

教育費をはじめ子育てにお金がかかりすぎるとして、教育費や医療費などに対する支援の強化や、所得に比例して高くなる保育料の仕組みの見直しを求めるコメントが非常に多く、経済的な理由で複数子どもをもつことをあきらめるとするコメントも多くありました。また、教育については、教育内容に関するコメントも多く寄せられました。

<子ども・子育て観や意識に関する回答>

子ども・子育ては家族、地域、行政など社会全体で支えるべきとする考え方が大多数であったものの、親の無責任ぶりや過保護な養育といった親の責任に関するコメント、仕事をせずに育児に専念したいとするコメントも複数寄せられました。また、子どもを持つことが負担になっているとするコメントが多く寄せられたほか、一人っ子について後ろめたさを感じ取れるコメント、子どもの将来を不安視するコメントなどもありました。

「『日本で子育てすること』について思うことなんでも！」の主な回答

(以下は自由記入の回答を抜き出し連合が分類したもの)

<女性の負担とジェンダーバイアスに関する回答>

女性の負担が重すぎる

夫も育児に協力するのが当たり前になってほしい

夫の帰りが遅くワンオペ。せめて週1回でもお風呂に入れる時間に帰ってきて

子育ては孤独。母親が一人で悩まず楽しく子育てできる世の中になってほしい

核家族で、共働きで、夫の休みが少なく、実家も遠く、特に赤ちゃんの頃はひとりで子育てをすることに精神的にも肉体的にも限界を感じた
 学校行事など母親が在宅前提の制度がまだ多い
 父は長時間労働、母はワンオペ育児。罰ゲームか！

ジェンダーバイアスを指摘する声

女性が育児するのが当たり前（男性は補助する役割）と思われている
 女性だけが「両立」を求められるのはなぜ？
 「お母さんは疲れない、愛があればやれるはず、やっぱりお母さんじゃないと」を無くしたい
 母親なのだからこれぐらいできないと、みたいな呪い。一番頼りたいパートナーや親から突き付けられたりするので余計にしんどい
 結婚しないのか？子どもはまだか？2人目は？
 産んだら「休んでばかり」、働くと「子どもはいいの？」と、どんな状態でもいろいろ言われるのが女性
 男性が育児しただけで「イクメン」と持ち上げられるのはおかしい

男性に対する厳しい声

「子どもを連れて公園にいった」だけの自称「イクメン」が多すぎ
 夫は保育所までは協力的だったが、小学校に上がったたらほとんど子育てに関与しなくなった。小学生になると手がかからないと思われているのか（職場も）
 なぜ夫まで育てなきゃいけないの？

男性の立場からの声

社会や妻から育児に参加しろといわれても、仕事の負担も大きい。育児中の男性の声を聞いてほしい
 男性の育児参加について、女性に比べて職場の理解が進んでいないように感じる
 お迎えの呼び出しや急な発熱時の休みなど、急な対応を男性がするのは難しい
 子育て番組をもっと放送して。男が育児に参加しやすい環境づくりや知識とか、知ることができる機会があれば

<職場の環境・理解と働き方に関する回答>

休業や休暇

仕事が休みづらい（男女とも）
 夫に育休を取ってほしいといったら「職場の理解がないからムリ」と言われ、いまだに恨んでいる
 子どもは思った以上に体調を崩しがち。子の看護休暇をもっと認知させるべき
 男性の育休義務化には反対。「育休＝自分の自由時間」と思って行動されるだけ

職場の理解

管理職や上司は子育てを妻任せで、子育て世代の気持ちがわかってない
 子どもがいる人ばかり優遇されてというやっかみみたいなものがある
 子どもに関して休むと陰口を言われる
 経費削減、人員削減の時代に、子育てしているのだから、お互い様なんて、きれい事で済ませないでほしい
 「子どもを産むと女性は変わってしまう」と言われるのはとてもつらい。子どもが生まれて意識や生活、仕事の仕方を変えなければならないのは必然なのに
 女性が受けていた差別と同じことが起きてないか。子育てを理由に苦しむ男性が減ってほしい

一方的に配慮を求めるのではなく、子育てをしている側もどうやって職場に貢献するか、考え実践していくことが必要

親の自覚がまず必要。仕事と両立したいなら、それなりの覚悟、犠牲は当然必要

労働時間が長い

子どもにかかる時間がない

お迎えが遅かったり、残業で帰れない私に泣きながら「お母さん早く帰ってきて、お母さん死んじゃう」と電話が来たりすると何のために働いているのかと感じた

仕事をしながらの子育ては心身ともにしんどい

勤務制度について

コロナで在宅勤務となり、よかった

単身赴任を無くすよう企業はとりかかるといい

フルタイムでは両立できず、時短でしか働けないので給料が少ない

育児のために時短勤務にすると、仕事内容を変えられてしまう不安が漠然とある

共働きを支援する仕組み

共働きだと女性の負担が大きくなる。男性の働き方の選択肢がふえるといい

規制強化を

小学生以下の子の世帯の6h勤務の義務化（賃金減額なしで）

フルタイムでの共働きを法律で規制すればいい

子の看護休暇に対する給与支払いを企業の判断に任せているのはあまりよくない

<地域コミュニティの協力と防犯意識に関する回答>

地域コミュニティはありがたい

田舎だからかみんな子ども連れに優しい

周りが協力的でうれしい／地域で子育てしている感じがしている

かわいいね、今いくつ？など温かい声をかけていただくと本当にありがたい

周りに叱ってくれる人がいると助かる

つながりがほしい

親同士の繋がる機会が少ない

周りの人たちの理解と協力がないと孤立してしまう

オンラインのサロン、コミュニティの充実

子ども食堂など気楽に集まれる場が増えてほしい

遊び場がほしい

子どもの遊び場がもっとほしい

使用制限の多い公園が多い。一部の年配の不平不満に敏感に対応しているのでは

コロナ禍でも子どもが退屈せず過ごせる楽しい場所があるといいな

高い防犯意識

不審者に思われる？と子どもへの声がけをためらう

不審者の取り締まりを厳重にしてほしい

子どもの安全を第一に考えて守られる環境を

危なくない大人を育てる教育が必要

地域コミュニティは厳しい

周りに聞ける人、助けてくれる人が少ない

人の視線が厳しい／みな昔は子どもだったのに！

道路で遊んでいても「道路族」と言われ、近所迷惑となり、トラブルも多い
 夜泣きしているだけで虐待では？と通報される。もう少しおおらかに見てほしい

施設が利用しにくい

スーパーはベビーカーで入れないし、駅のエレベーターはなかなか乗れない
 電車・バスなど公共交通機関での肩身の狭さ
 通学路の整備を／歩道の段差が気になる

<子育て費用に関する回答>

教育費が高い

学費の免除・支援を（義務教育／高校／大学）
 教育を受ける権利の格差を平等にすべき
 大学無償化は反対。真面目に勉学に励む姿勢でない学生が増える
 塾や習い事でお金がかかる／学力はお金がないと上がらない

生活にかかる費用が高い

2人目は無理／2人が限界
 子育てにこれだけお金がかかるなら、「子どもを育てることは道楽」と言われても仕方ないと思ふ／子どもにかかるお金を無料にしてもらいたい
 子ども手当を増やしてほしい／所得制限は不平等
 家のローン負担が重い／家の広さが足りない
 医療費無料／子どもの食費に対する補助を
 出産からしてとにかくお金がかかりすぎる。これ以上は育てられないと思った

保育サービスについて

待機児童がない仕組みにしてほしい
 入園の優先順位を見直してほしい
 保育料が高すぎる／無償にして／一律にして
 保育所増設、職員増員が正しいとの風潮に疑問
 幼保無償の前に保育所の先生の給与上げて！

子育て支援全般について

子育て支援は充実してきているが、活用しにくい
 気軽に相談できる場所、相手、助け合える仕組みが欲しい。ワンオペで、虐待一歩手前で、苦しんでいる家庭が沢山あるはず。
 3人目も欲しいが、自転車での送迎ができない。共働きで早く家を出るため、バスの利用もできない
 若者の給料では子育てするのは厳しい／小さな子どもだけでなく若者にも支援を
 ひとり親に対する支援が不十分
 子どもが発達障がいでも2人目は難しい。行政の給付があるとありがたい
 産む前のサポートにもしっかり目を向けてほしい
 子どもが多い家庭にお金や休日などが優遇されるようになればいいと思う
 独身税をとって
 子育てにかかる費用を手厚く補助し過ぎ。何でもすぐ病院にかかるべきではない
 制度の充実是有難いが、望んでも子どもに恵まれなかった方への配慮が難しい

教育を変えてほしい

日本の教育は四角四面。自由な発想を育める環境を
 教育の内容がグローバルになっていくことを望む
 危機管理能力のため護身術などを授業で学べたら
 英語を幼稚園から必修にしてほしい
 日本の歴史などをしっかり教える必要がある／日本人として誇りのもてる教育を

起業やサイバー攻撃、ウイルスなどについて、早くから学ばせるべき

<子ども・子育て観や意識に関する回答>

子育て観について

一義的には保護者が担うのだけれども、「子」というものは家族、地域、県、国で育てるんだという意識が当たり前になれば

子育てが各家庭任せになり過ぎ

自己責任の重圧が凄すぎて、子育てが楽しめなかったなあ

子育ては夫婦でするものという意識が根付くといい

2歳までは仕事しないで育児したい

共働きでないと豊かな生活が送れない

親の姿勢について

何がベターなのか、甘やかしすぎではないかと、日々悩みながら子育てしている。苦労は尽きないが、これ以上に幸せを与えてもらっている

親の責任にされすぎている

親が背伸びしすぎ／子どもを急かしたり、邪魔だからどきなさいとか、世間体や周りの目を気にする余り、子どもの自己肯定感を損なう様な親の言動が顕著だと思う

親が過保護すぎて子ども同士のふれあいが少なすぎる

わが子可愛さの過保護的要求の撲滅。親としての責任を自覚すべき

「子育てがストレス」「自分の子どもといるのが嫌」という親、「保育所に丸投げしよう」という親、おかしくないか？／日本は子育てを他人に甘えすぎ

子どもを持つのはデメリット？

子育てするほど、家族が増えるほど、負担が重くなる社会に違和感しかない

子育てが損する気持ちにならない（むしろ得する）社会にしてほしい

一人っ子でもいいという雰囲気になってほしい

日本は老人を優遇し、子どもに冷たいと思う。少子化が解消されるわけがない

子どもの将来が不安

国の借金が多すぎて子どもたちに申し訳ない

子どもが大人になった時の日本の将来が見えない

人々の意識について

「極端に心の狭い人が自信を持たないように啓蒙しよう」というムーブメントが起きてほしい
大人がもっと余裕と希望があればいいのに。子どもたちが大人の背中をみて、夢を持ったり、ワクワクしてない気がする

発達障がいにも敏感すぎ／障がいを個性として受け入れてほしい

男女平等の誤解。女性が男性のようにというのではなく、女性がありのままに人生を選択できることが認められる社会になってほしい

晩婚化、夫婦のみの世帯、LGBTQ等、子どもを持たないなど、それぞれが生き方として尊重されるべき

SNSが発達し過ぎて、自由にのびのびと暮らせない気がする

など

調査概要

- 【調査タイトル】 連合 子ども・子育てサロン子育て世帯向けアンケート
【内容】 子育て中や子育て経験のある方から、子育てをされていて感じたことなどリアルな声を集めるアンケート
【集計期間】 2022年1月7日～2月6日
【調査方法】 Googleアンケート
【周知方法】 Twitter
【対象】 子育て中や子育て経験のある組合員
一般の方
【有効回答数】 2,173名

報道関係者の皆様へ

本調査結果の内容の転載にあたりましては、「連合調べ」と付記のうえご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

本調査に関するお問い合わせ窓口

連合（日本労働組合総連合会）

【内容について】

総合政策推進局 生活福祉局 担当：千葉・北村・松田

Eメール：jtuc-seikatsu@sv.rengo-net.or.jp

【記事での取扱いや取材について】

総合企画局 企画局 担当：陳

Eメール：jtuc-kikaku@sv.rengo-net.or.jp

※受付時間：10時00分～17時30分（月～金）

※お問い合わせはメールにてお願いいたします。

連合（日本労働組合総連合会）概要

連合（日本労働組合総連合会）は、1989年に結成された日本の労働組合のナショナル・センター（中央労働団体）です。加盟組合員は約700万人。すべての働く人たちのために、雇用と暮らしを守る取り組みを進めています。



連合ホームページはこちら

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/>

